

2026年オープン データ インフラストラクチャ レポート

組織の44%は、専用ツールを備えた単一のコアプラットフォームを好み、80%はコストを大幅に削減できるのであれば、より少ないプラットフォームに統合したいと考えています。



データ インフラストラクチャに関連するAIのユース ケースにおいて、Gen AIとLLMを活用したアプリケーションは明らかにトップであり、82%の組織がこれらを挙げています。



組織の78%が、データ インフラストラクチャを評価する際に、ベンダー間およびツール間の相互運用性が極めて重要だと回答しています。



総所有コスト(80%)とセキュリティおよびコンプライアンス(79%)は、企業がデータインフラストラクチャプラットフォームに求める要素の上位を占めています。



ハイブリッド検索(キーワード検索とセマンティック検索を組み合わせたもの)は、現在、組織の68%にとって推奨されるアプローチとなっています。



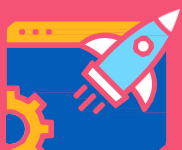
データ インフラストラクチャに関する主なリスク懸念事項は、セキュリティの脆弱性(58%)、規制遵守と複数のツールにわたるデータ漏洩(それぞれ33%)、ベンダー ロックイン(32%)です。



AIワークロードの運用、または運用計画は、あらゆる地域において少なくとも83%の組織で標準的な慣行となっており、大企業では90%を超えています。



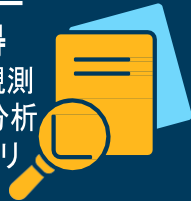
組織の71%が、特定のベンダーやクラウド プロバイダーに依存しないインフラストラクチャの展開は戦略的な優先事項であると回答しています。



OpenSearchの認知度は、2024年の68%から2026年には89%に上昇しました。



OpenSearch の上位のユースケースは、検索と取得(91%)、ログ分析と可観測性(83%)、リアルタイム分析とオペレーショナル インテリジェンス(70%)です。



組織の77%がOpenSearchをAIに関連するものと捉えており、44%がAIの中核インフラと位置付けています。また、62%が既にAIワークロードでOpenSearchを利用しています。



OpenSearchの実運用導入率は、2024年から2026年の間に19%から36%へとほぼ倍増し、さらに36%がテスト中または導入を計画しています。

